

## 第5回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<中学の部 優秀賞>

### ハッピーバースデイ

笹治寛恵

最悪の誕生日。どうしてあんなことをやってしまったんだろう？

ダイスキな親友とけんかした。ちょっとした言葉で、頭に血がのぼった。ダイスキな親友に「ダイキライ」と叫んだ。

家に帰ると、涙が溢れ出た。枕に顔をうずめて、声を殺して泣いた。神様に頼んだ。

「お願いします。時間を戻して下さい。」

だけど、時間は戻らない。本当はダイスキなはずなのに。謝りに行くのは怖くて、どうすることもできずに泣いた。泣きつかれると、眠くなって寝た。目が覚めたら、今までのことが全て夢でありますように。そんな淡い希望を抱きながら…。

インターホンの音で目が覚めた。外は、きれいな夕焼けで、でも私の心はどしゃぶりで。

結局、時間は戻っていなかった。もう、何もかもどうでもいいかなと、思った。

まるで、私の心のように重い玄関を開けた。そこには、ダイスキな親友がいた。一瞬、馬されるのかな、と思った。でも、親友は少しはにかみながら、言った。

「ハッピーバースデイ。」

たったそれだけの短いコトバ。でも、それが嬉しくて、嬉しくて、また涙がこぼれた。

親友は、一瞬、目を丸くして驚いたけど、すぐに私を抱きしめてくれた。

私は、何か言おうとして、でもコトバがのどにつまって出てこなかった。

「ゴメンネ」でもない。「アリガトウ」でもない。私が今、一番言いたいのは…。

「ダイスキだよお。」

心に虹がかかった。

最悪な誕生日。心がどしゃぶりで真っ黒になった。

でも、あがらない雨はなくて。雨があがったあとの虹は、最高にキレイで。

最高の誕生日になった。